

議 事 録

会 議 の 名 称	第 3 回玉里地区小中一貫教育学校建設準備委員会
開 催 日 時	平成 2 8 年 1 月 2 7 日 (水) 1 3 時 3 0 分～
開 催 場 所	水戸市立国田小中学校
出 席 者	<p>【出席委員】</p> <p>小松与士宏 石塚 匡巳 鬼束 久也 西村 恵子 中村 仁樹 戸田 見良 大山 明弘 川又 義祐 箱田 俊男 大山 徳 羽鳥 文雄 笹目 賢一 園部 文夫 鶴町 文男 関 四郎 田上 義明 亀井 優 水野 貞雄 戸田 見成 山口 淳</p> <p>【欠席委員】</p> <p>山崎美奈子 瀬畑 誠 小山田香代 上田 義宗 千葉 雅子 山田 宏彦 小林 文雄 宮田 聡 林 憲昭 村山 憲司 田中 周 上田 稔 大和田智弘 大槻 良明 木田 強志 今泉 直美 戸田 大我</p> <p>【事務局】</p> <p>長谷川正典 皆藤 正造 比気 龍司 小林 利英 田山 伸一 田村 直弥</p>
内 容	小中一貫教育の先進校視察
会 議 資 料	別 紙 (会議次第、 他)
記 録 方 法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 (傍聴者 0人)

【国田小中学校長あいさつ】

お越しいただき、ありがとうございます。本校の歩みと本校の特色ある教育について簡単に述べさせていただきます。さて、本校は、この校舎が完成した平成7年4月より県内初の小中併設校として新たなスタートを切り、恵まれた自然環境や人材を活かしながら特色ある教育を続けてまいりました。生物研究部によるホタルの成育に関する研究もその1つであり、現在までの20年間に渡り受け継がれております。平成23年には小中一貫校^{*1}となり、施設一体型のメリットを生かし、小中教員の相互乗り入れによる教科担任制や児童生徒の発達段階に合わせた4-4-1制による教育課程を取り入れ、学びと育ちの継続性を重視した教育の充実に努めてきました。小中教員の相互乗り入れとは、小学校の先生が中学校へ教えに行ったり、中学校の先生が小学校へ教えに行ったりといったこと。教科担任制とは、小学校は担任の先生が国語や図工、算数や体育などの多くを教えますが、教科によって教える先生が代わる中学校のような方式のことをいいます。平成26年度からは、小規模特認校制度^{*2}の適用を受け、水戸市内全域からの通学が可能となったほか、幼稚園も同じ校舎内に併設され、多様な異学年交流による豊かな人間関係作りを進めています。現在の在籍児童生徒数は、小学生が110名、中学生が60名、合計170名となっています。そのうち2割にあたる34名が学区外から通っています。少子化は頭の痛い問題ですが、特認校制度により在籍数が維持され、学区外の子供の転入学によって学校が活性化するなど、子供の減少に影響されない学校運営が可能となっております。また、少人数を強みと捉え、児童生徒が主役となって活躍する機会を設けるほか、タブレットを使った授業などICTの活用を展開しております。タブレット、情報機器を授業に取り入れ、子供達の活動中心の授業を展開しております。従来型の授業では、黒板を使用した一方的な教師主導の一斉授業が多いのですが、水戸市からタブレットの提供を受け、全ての教科でタブレットを使用し、子供の興味関心に沿った授業を進めるように努めております。また、水戸まごころプランによる1年生からの英会話や教師の専門性を生かした教科担任制なども本校の特色ある取り組みです。

さて、本年4月からは、学校教育法と水戸市条例の改正を受け、新しい学校の種類である水戸市立国田義務教育学校^{*3}に移行する予定です。現在、PTAや地域の皆様、学校関係者の参画を得ながら準備を進めているところです。

最後になりましたが、本日は皆様から感想や意見を賜り、今後の学校運営に生かしていきたいと存じますので、よろしく願いいたします。

【水戸市総合教育研究所長あいさつ】

国田小中学校は、水戸の市街地から離れた田園地帯にある小規模な学校です。20数年前に小中一緒の校舎が造られ、その後、水戸市の施策を反映し、時代の流れや教育の目標の変化等に対応するために、色々と教育活動を行ってきました。今日は、後ほど質疑応答の時間もあるとのことなので、学校教育課、施設課の課長も出席しております。色々な疑問点や知りたい事がありましたら、質問いただきたいと思います。短い時間ではありますが、よろしくお願いいたします。

【準備委員会委員長あいさつ】

この国田小中学校は、大変よく整備されていて、非常に整った環境で子供達が学んでいると思えました。本日は大変お忙しい中、訪問させていただきまして、ありがとうございます。

さて、現在我が国の様子を見てみると、急激な少子化、高齢化ばかりでなく、グローバル化、情報化が速いスピードで進展しております。そういった中で、私たち学校に勤めている者としては、子供達のためにどのようなことが出来るかです。それには、この変化の激しい社会を乗り越え、未来を切り拓いていく力を子供達に身に付けさせていかなければならないと思えます。そういった中で例えば、学校教育法が一部改正され、来年度4月1日から義務教育学校という制度が施行されます。今までは、小学校6年、中学校3年というカリキュラムの中で学校が運営されてきました。制度の多様化、弾力化を行い、より特色ある教育活動を展開できる、9年間を見通したカリキュラムになってくるのではないかと思います。国田小中学校のカリキュラム、教育活動等を視察させていただき、今後の学校づくりのために大いに学ばせていただきたいと思います。今日は、よろしくお願いいたします。

【水戸市教育委員会 紹介】

水戸市総合教育研究所	小野所長
水戸市総合教育研究所	鈴木副所長
水戸市教育委員会	三宅学校教育課長
水戸市教育委員会	七字学校施設課長

【水戸市立国田小中学校 職員紹介】

吉井	由隆	校長
河西	勲	小学校教頭
古橋	賢治	中学校教頭
池田	貞治	中学校教務主任

【学校概要説明】

○特色ある教育活動

資料「ようこそ 国田小中学校へ」に基づき、池田中学校教務主任による説明

本校は先ほどもありましたとおり、平成7年度に県内初の小中併設校として誕生し、施設一体型の学校として教育活動を進めてまいりました。平成16年度には、小学校と中学校が乗り入れて教えることが出来る兼務発令がされております。平成23年度には一貫教育を新たに打ち出し、平成26年度には小規模特認校の適用を受け、さらに幼稚園が入り、幼小中11年間の教育活動を推進することとなりました。一貫教育校として、どのようなバックボーン、ランドデザインを持っているかを2点掲げさせていただいております。1つは、さわやか国田という理想の児童像、生徒像を求めていくことです。もう1つは、システムの変更に關することであり、従来からあった6-3制から、4-4-1制の特色ある教育活動に移行するという事です。この2点を大きな柱としております。この2つについて説明させていただきます。

まず、国田のランドデザインについて説明させていただきます。配布資料のリーフレットをご覧ください。生きる力の育成として、9年一貫教育を通して子供一人一人に確かな学力を身に付けさせるということを掲げ、その達成のために児童生徒を全面に据えた教育活動を推進することを組織目標としております。さらに、それを3つのプロジェクトに分け、かしこさ・やさしさ・たくましさ、それぞれで進めております。主な内容は、資料の下段にありますので、ご覧いただきたいと思ひます。

続いて、4-4-1制の教育について説明させていただきます。本校では、小中一貫の9年間を4-4-1に区切り、ベーシックグレード・ミドルグレード・コンプレッショングレードと名づけております。1~4年生のベーシックグレードでは、学びの基礎力の育成を基本とし、豊かな基礎体験や自ら学ぶ力に視点を当てております。それに伴い、様々な体験活動を通し、物事への好奇心や意欲を育て、学ぶ楽しさを身に付けさせております。具体的には、授業の展開の中で複数の教科担任教員の指導やTTの活用などを取り入れております。5~8年生、小学校5年生から中学校2年生までのミドルグレードでは、社会的な実践力を育成することを基本としております。問題解決力や自己成長力に視点を当て、基礎的な知識と技能を確実に身に付け、それとともに思考を深める力を養い、発展的な学習にも取り組んでおります。具体的には、教科担任制や小中複数教員によるステップアップ学習などを取り入れております。9年生は国田教育の集大成として、視野を広げ、将来の進路の選択や確かな学力を身に付けさせることが目的になっております。また、人のために役立つことを視点到自ら考え、主体的に行動する力を身に付けさせております。ここでは、復習の強化を図るため、週4日間の7時間授業に取り組んでおります。また、

地域や将来の進路を考え、自分達にできる事は何かということを考えた取り組みを行っております。

そして、昨年度から移転してきた幼稚園との関わりを今まで以上に重視し、小1への接続をよりスムーズにすること、五感を生かす体験を通して、様々な生活習慣を身に付けることを考えております。このように幼稚園と連携する事と4-4-1制を導入する事によって、人として豊かな心と子供達一人一人の個性や能力に応じた11年間の連続性のある教育が出来ると考えております。

次に教育課程の編成について説明させていただきます。学習指導の充実を図るため、6点挙げさせていただいております。「1.個に応じた指導の充実」基礎基本の徹底と発展、さらに応用に向けての学習の広がりを目指します。「2.小中学校複数教員によるステップアップ指導」補習授業と言う方が分かりやすいのではないかと思います。基礎の振り返りによって定着を図るため、何人かの先生を学年に配置し、小学校は算数、中学校は国語、数学、英語の3教科についてステップアップ学習を行っております。「3.1年生からTTによる指導」特に算数、数学においては、必ず複数教員で授業を行うことになっております。

「4.5、6年生からの教科担任制」専門教科の先生を各教科に配置し、5、6年生は教科担任となっております。3、4年生は試行ですが、一部教科担任制という形をとっております。「5. AETによる小学生からのオール・イン・イングリッシュの英会話」なかなか難しいところはありますが、出来るだけ英語を使った授業を設定しております。「6.幼・小・中の交流授業の充実」幼稚園・小学校・中学校、または幼稚園・小学校、幼稚園・中学校で行う交流授業を実施しております。小中教員の授業乗り入れについて説明させていただきたいと思っております。資料では中学校教員が小学校の授業を行っているものを太字で示しております。算数・数学については、中学校教員が1年生から加わっており、音楽や図工、体育等の技能教科は、専門の免許を持った中学校教員が授業に加わっております。また、先生の時間割も載せております。色が着いている箇所では、担任ではない教科担任の教員が授業を行っております。

最後に小規模特認校制度を簡単に説明させていただきたいと思っております。配布資料に小規模特認校制度の条件が書かれております。平成26年度からは、条件を満たす水戸市内全域の児童生徒が転入可能となりました。もちろん保護者の理解を得てということになりますので、送迎等は保護者が行うという条件が入っております。現在、小規模校制度を利用して本校に在籍する児童生徒は、27名となっております。先ほど話にありました人数は、学区外という制度で入ってきている児童生徒も含んでおりますので、若干少なくなっております。2年間の制度の効果としては、子供達が非常に優しい接し方が出来る、思いやりを持って生活が出来るところが非常に素晴らしいと感じております。さらに、保護者が地域に対して非常に協力的であり、ボランティアを始め、PTA役員についても積極的に関わっているところが特認校制度の効果ではないかと思っております。

○学校紹介

8年生（中学2年生）生徒全員による紹介

僕たちが通うこの国田小中学校は、今年で21年目になります。昨年度からは国田幼稚園も加わり、より華やかな学校生活を送れることとなりました。また、小規模特認校ともなり、国田地区以外からも通えるようになったことで、沢山の仲間が増えました。今からこの国田小中学校の活動を紹介します。

授業ではタブレット等を使い、情報機器によるコミュニケーション能力の向上に努めています。小学5、6年生から社会科や理科など専門の先生が教えてくださり、生徒一人一人のことを大切に見ていてくれています。授業の中では、先生が何人かいることで、質問がしやすく、とても分かりやすい授業になっています。小学校では毎週、中学校では月に1回、ステップアップ学習の時間があります。ステップアップ学習では、全学年で学習した内容を復習して学力向上を図る時間にしています。小学生は算数、中学生は国語、数学、英語の3教科に取り組んでいます。また、夏休みや冬休みは、学びの広場という補習授業があります。小学生は算数、中学生は5教科の復習に取り組んでいます。

次に部活動です。中学校には、剣道部、男女卓球部、女子バレー部、生物研究部があります。それぞれの活躍を紹介します。まず、剣道部です。新人戦では、水戸市、中央地区と素晴らしい成績を残し、男女とも県大会出場を果たした強豪チームです。卓球部は、男女とも中央地区出場を果たしました。特に女子は、去年の夏の総体で関東大会出場という快挙を達成しました。今年の新入戦でも素晴らしい成績を残しました。女子バレーボール部は、現在部員がいないため、新人戦には出場することが出来ませんでした。しかし、先輩たちは中央地区大会に出場した歴史もあり、来年度には新入部員も加入予定で古豪復活を目指しています。生物研究部は、中学校唯一の文化部としてあります。40年以上の歴史を持ち、地域に生息するホタルの保護活動や研究を行っています。このように国田の部活動は、数は少ないですが、一人一人が頑張っています。

次に学校行事を紹介します。小学校1年生～4年生までの遠足は、2学年ずつ一緒に行きます。宿泊学習は、小学5、6年生が一緒に行きます。上の学年が下の学年をリードすることで、協力し合い、絆を深めることができます。低学年で行うものもあります。月曜日の朝に1～6年生で遊ぶランランタイムや幼稚園生～中学生までの縦割り班が充実しています。また、他の学校との交流も盛んに行われています。小学校では、三の丸小学校との交流が年に3回あり、田植え、稲刈り、収穫祭を行い、交流を深めています。また、飯富特別支援学校との交流も行われております。7年生では、仲間作りのための宿泊学習や鎌倉校外学習があります。仲間作りのための宿泊学習では、ウォークラリーやレクリエーションを通して、互いに協力し合い、絆を深め合うことで、更に仲が良くなっていきます。8年生では船中泊を伴う自然教室があります。北海道の大自然の中で寝食を共にする4泊5日は、互いの理解を深め合うことが出来ま

す。9年生では、奈良・京都へ修学旅行へ行きます。日本の歴史ある建造物や文化に触れることで日本の歴史について更に理解を深める機会となります。国田幼小中大運動会は、幼稚園生～9年生までが一緒に行う国田小中学校の大行事です。全員で行う全員リレーは、チーム分けや走る順番を決め、小学生と中学生が混合で走ります。翔蚕祭は、国田小中学校の文化祭です。合唱、学習発表、ステージ発表などを学年ごとに行います。ステージ発表では、オーディションを通過したダンスや出し物が披露されます。このような行事を行うことで互いの良いところを見つけたり、自分の良い点を伸ばしたりしています。授業の一環としてハロウィンパーティーを小中合同で行います。仮装してグループに分かれ、色々な遊びを楽しみます。また、中学生が小学生に読み聞かせをする機会があります。中学生が小学生に喜んでもらえるように本を選びます。きちんと聞いてくれるので、読んでいる私たちも楽しんで読むことができます。

国田小中学校では、ボランティア活動も盛んです。小学校では1人2つのプランターを作り、国田を花でいっぱいにしていきます。花壇の散水も進んで行っています。また、秋になると、ボランティアで参加者を募り、落ち葉掃きも行われます。部活動毎に当番を決めて行う玄関清掃は、1年間を通して行われます。ボランティアは、学校外でも行われています。セツ洞公園整備活動では、小学生が地域の方々と交流をしながら行います。また、地域の行事にも積極的に参加しています。夏に行われる国田祭りでは、小中学生が日頃お世話になっている地域の方々に感謝の気持ちを込めて合唱を披露します。また、中学生は、地域の方々が開いているお店のお手伝いなどをします。地域の敬老会では、小中学生がおじいさんやおばあさんの受付案内のボランティアを積極的に行っています。地域の浄化活動では、生活しやすい綺麗なまちづくりに協力しています。この秋に開かれた地域防災訓練では、地域の人達と協力して消火訓練やAED体験を行いました。特に9年生は、防災学習の一環として、地域の一員として避難所開設に伴う積極的な手伝いをしました。万が一の場合に備えて、大きな力となることも中学生には求められています。地域の方々が守り続けているホタルは、年間を通して保護活動を行っています。毎年開かれるホタル観察会で生物部が研究の成果を発表しています。国田の魅力を感じることができるホタルを通じて、地域に貢献する活動もしっかりと行っています。

このように国田小中学校には、他の学校にはない様々なことに取り組んでいる魅力溢れる学校です。そして、これからも国田小中学校は、地域の方々と協力し、より良い学校になれるように努力していきます。これからも国田幼稚園、国田小中学校に暖かい声援をよろしくお願いいたします。

【授業参観及び施設視察】

本日の授業一覧の資料を見ていただきたい。乗り入れ授業や教科担任制といった話があったかと思う。本日の授業では、4年生の音楽の授業を中学校の音楽担当が行っている。5年生の理科は、4年生の担任が授業を行っているが、中学校理科の免許を持っている教員なので、教科担任として理科を担当している。この時間は、5年生担任は空き時間となり、教材研究や子供のノートを見るといった時間としている。

－ 授 業 参 観 及 び 施 設 視 察 －

【質疑】

学 校 ご質問等あれば、お願いしたい。

委 員 他の学校から先生が異動してきた際、この学校のカリキュラム等に慣れるのに抵抗感といったものはあるのか。どのように慣れるのだろうか。

学 校 私は今年の4月に異動してきた。水戸市では教頭も授業を持つため、授業にも出ている。新鮮さはあったが、抵抗感は感じなかった。市内のみならず市外においても、国田小中学校は特色ある教育活動を行っている学校として名前が知られているので、他の学校に在籍している場合でも話を聞くことができていた。他の学校とは違う部分はあるが、抵抗感というよりは楽しみや凄いなというように感じた。慣れという点では、教頭という立場の場合、初めは学校内で行われることの把握が慣れなかった。中学校の教頭なので、幼稚園で何が行われるか、小学校で何が行われるかということの把握に最初は戸惑ったが、抵抗感を感じた事はない。

学 校 今年度までは、小学校所属の教員と中学校所属の教員が分かれていたため、国田小へ異動、国田中へ異動といった形だった。来年度4月からは、義務教育学校として1つの学校になるので、教員も小学校所属、中学校所属ということがなくなる。小中一貫教育をやってみたい先生がいるはずだと思い、平成27年末に公募型人事異動を行った。自校ではこういった先生を求めているということをビデオで配信し、それを行いたい教員が応募することができるというものであり、2人応募があった。先日、面接を行い、国田でしか出来ないことがありそうなので、国田に異動したいということをも2人とも言っていた。特色があるので、最初は戸惑いや驚きがあるかと思うが、すぐに慣れて力を発揮する人がほとんど。

委 員 保護者は、小中一貫校のことを最初から分かっている入学する人が多いので、大丈夫ということなのだろうか。

学 校 保護者からは、一貫校に関する抵抗といったものは聞いていない。

委員 私たちは、これから小中一貫になるとともに3つの小学校が1つになるという
 ことがあり、それぞれ違った特色がどのようになるのだろうかと思うの
 だが、小中一貫校となった時のことを分かる方はいるだろうか。

学校 設立当初のことは分からないが、昨年度から小規模特認校となり、国田区域
 外の方も通うようになった。そういった方達も学校の活動に積極的に協力
 してくれている。PTA本部役員や学年委員を担っている方もいる。今日も
 図書ボランティアとして、保護者に来ていただいております、その中に区域外
 の方もいる。そういった点では、学校に対して非常に協力的な保護者が多いと
 感じている。

委員 4月から義務教育学校になるとのことだが、現在の国田小中学校の教職員定
 数と義務教育学校になった場合の教職員定数では、増減があるのだろうか。

学校 28年度は、今の国田小学校と中学校の定数を足した数が義務教育学校の定
 数となる。それに義務教育加算としてプラス1名となる。加配ということ
 ではなく、加算となる。小中学校を一緒にして教職員の数が減るということは
 無いと聞いている。

委員 文科省の定数が加算ということなのか、水戸市として加算ということなの
 か。

学校 水戸市の加算ではなく、文科省の加算となる。その1人とは、校長が1名の
 ため、その下に副校長を置くことで加算ということ。ただし、一般の教諭に
 置き換えて加算も可能なので、国田小中は教諭を1人加算の方向でいる。

委員 2点聞きたい。1点目は、従来の教育から一貫教育に移行する際、子供達に
 どのような反応があったのかということ。2点目は、資料を見ると、リーダ
 ーシップについてあるが、低学年は何を思っているのか、高学年は何を思っ
 ているのかを教えてください。

学校 子供達の反応ということだが、約20年が経過するので、もともと国田にい
 た子供達は、そういった学校という意識が強いと思う。なので、特別な反応
 は無いのではないかと感じている。リーダーシップという話もあったが、4
 -4-1としているので、例えば4年生がリーダーシップを取る場面もあ
 る。小学生という括りでは、6年生がリーダーシップを取る場面もある。ま
 た、幼稚園生との交流では、2年生等がリーダーシップを取ることもある。
 様々な場面でリーダーシップを発揮することがあると思う。特に2年生等
 は、普段は甘えん坊な子でも、幼稚園生と一緒に活動した場合、本当に良く
 幼稚園生の面倒を見るという姿も見られる。そういった様々な異学年交流が
 出来るということは、一貫校の良い点ではないかと思う。

委員 小中一貫校にした場合、授業の内容や進み具合は、一貫校ではない学校と合
 わせるのか。小学校と中学校を別にした場合、授業の内容が被るところがあ
 ると思う。小中一貫校にした場合は被るところが無くなり、その分余裕がで
 きるのではないかと思う。他の学校とメリットが違うと思う。

学校 小中一貫校ではあるが、現時点では文部科学省の定めた学習指導要領に則っ

て学習を進めているので、上の学年の内容を前倒しすることや中学校の内容を小学校で教えるといったことは行っていない。ただ、義務教育学校になると、そういったことも可能になる。現在は、カリキュラムの見直し等を職員で行っている状況。補習の時間については、先ほど説明にあったステップアップ学習の時間を使っている。現時点では小学校は小学校、中学校は中学校の学習内容で学んでおり、他の学校と大差はないかと思う。

学 校 部活動は、6年生が中学校の部活動に参加している。他の学校では中学校に入学してから部活動に参加するが、同じ体育館を使っていることもあり、6年生も一部部活動に参加している。小中一貫教育で一番大事なことは、一貫性や継続性だと私は思う。小学校6年間は担任の先生が教え、中学校では勉強が難しくなるために専門の先生が教えるといったことは決して間違っていないと思う。しかし、小中が一緒になっているので、中学校教員の専門性を小学校でどんどん発揮してほしいということで行っている。本日の5年生の理科もそうになっている。他の学校では担任の先生が教えることが多いが、理科に専門性を発揮し、自信を持って教えることが出来る教員が教えることで力が着いてくるのではないかと思う。教育の一貫性、継続性ということで小中一貫の学校は力を発揮できるのではないかと思っている。

委 員 現在は小中学校なので、部活動の顧問は中学校の先生が担っているのではないかと思う。義務教育学校になった場合、部活動の顧問を1年生や2年生の担任も持つことになるのだろうか。

学 校 現在、小学校所属職員も部活動の顧問に名前が入っている。ただ、日常の部活動は中学校の職員が中心に行っている。中学校で出張が多い場合や職員が足りない場合には、小学校の職員が練習を見るといったことを行っている。小学校の職員が練習試合の引率を行ったこともあった。次年度の部活動に関しても、現在の小学校所属、義務教育学校前期課程所属の職員が今以上に部活動に関わることもできるので、検討を重ねている。

委 員 小学生は児童、中学生は生徒と呼んでいると思う。これが一貫校になると、どのようになるのか。また、中学校は生徒会がある。一貫校、4-4-1となった際、こういった形で子供達の自主性を出していくのか。

学 校 児童と生徒の呼び方については、現在は児童生徒と呼んでいるので、継続されるのではないかと思う。生徒会に関しては、児童生徒会としており、小学4年生～中学3年生が委員会等の活動と一緒にしている。生徒会長等の役職に関しては、中学校で選挙を行っている。なので、現在の児童生徒会でも小中学校と一緒に活動しているので、次年度でも大きく変化することはないのではないかと思う。PTAも平成25年度から小中学校で一本化され、活動を行っている。

委 員 平成26年度に他学区からの転入が可能になったという話だった。逆に他学区へ転出する子供もいるかと思う。また、1年生～9年生までが1学級ずつなので、1年生の時に人間関係でつまずくと、9年間クラス替えが無いこと

になってしまうかと思う。他の学校では、進級する度のクラス替えや中学校進学によってリセットされるといったことがあると思う。部活動の種類も多くないので、中学校進学時に転出することも可能ではないかと思う。転出した実績等の数値があれば、教えていただきたい。

学 校 私は、この学校に赴任してから3年目になる。転出については、保護者の転勤等で引っ越すことによるものが多い。この3年間では、人間関係によって転出といったことはなかった。部活動では、6年生から中学校へ上がる際、希望の部活動がないという理由で別の中学校へ進学した児童がいる。人間関係が原因で転出といったことは、私が知る範囲ではない。

委 員 視察をして子供達がとても落ち着いている、穏やかな印象を受けた。しかし、小中一貫校にお孫さんを通わせている方は、小中一貫校の子供達が中学生になった時、通常の中学校に通っている子供より幼く感じると言っていた。例えば、上の学年と仲の良い友達といった関係でいることが多く、中学校の部活のように先輩後輩という上下関係を学ぶといったことが少ない。ずっと和やかな状態なので、幼いのではないかという話を聞いた。そう感じることはあるのだろうか。

学 校 他の学校と比べると、先輩後輩という垣根はほとんどない。小学校時代からよく知っている友達という印象は受ける。ただ、個人的な考えかもしれないが、卒業後に学ぶことも出来るので、どのように最初に学んでいくかという優先順位の中に先輩後輩といったことがどこにあるのか、大人びていることがどの時点で必要なかということではないかと思う。優先順位はそれぞれ違うと思うので、どちらが良いということは私の口から言えないし、私も良く分からない。ただ、本当に仲が良いということは確かなこと。9年生が幼稚園生と一緒に遊ぶ場面もあるので、滅多に見られない世界だと思う。

学 校 私も赴任してくる前は、中学校に勤務していた。ここへ赴任してきた際、一番印象に残ったのことは、穏やかな表情をしているということ。私は他市町村、地方の中学校にいたが、色々な生徒がいた。国田の中学生の表情は、非常に穏やかで良い顔をしているという印象だった。

委 員 小規模特認校は、1学級ずつの1年生～9年生ということではよろしいか。例えば、児童生徒が増加して2学級以上になる場合には、小規模特認校ではなくなるのだろうか。

水教委 小規模特認校とは、学区外から魅力がある小規模の学校を選び、学区外からも通えるシステムになっている。2学級、3学級となった場合は、小規模特認校という名称ではなくなってくると思う。特認校制度は、市教育委員会の判断で可能となるものなので、学区外から通学可能ということは継続していけると思う。国田は、施設の関係で学級が増やせないといったことがあるので、1学級の範囲で現在は行っている。

委 員 玉里地区は、1学年2学級程度になるのではないかと思う。その場合、先生の配置等に苦労があると思うか。

学 校 本校の場合は、各学年1学級となっている。中学校は3学級となっており、教員が8教科、8人の先生が担当されている。なので、教員1人あたりの持ち時間が少なくなっている。中学校教員の持ち時数が少ないことを利用し、小学校の授業に出てもらい、免許教科の専門性を発揮してもらおうということ。小学校では、少しでも空き時間が増える。また、中学校の先生と一緒に体育などの授業を行うことによって、体育の授業について学ぶことができ、指導力にも結びつく。1年生～9年生まで2学級ずつになった場合、施設の問題、音楽室や理科室のやりくりといったことが非常に大変になってくるのではないかと思う。

学 校 例えば、国田で行っていることとほぼ同じように行う場合、先生にかなりの負担感があるのではないかと思う。行う学校の状況によって、どの程度実施するかの検討が必要。先ほどあったように、本校では特別教室を基本的に共用で使用しているが、1学年2学級ずつの規模になった場合には、理科室は2つあった方がよいといったこと等、施設の事前準備が必要になってくるのではないかと感じる。

15：27 閉会

【用語】

※1 小中一貫校

小学校、中学校の教育活動の連続性や一貫性を図る教育（小中一貫教育）を行っている学校。施設によって、一体型・併設型・連携型に分かれる。国田小中学校は、小学校と中学校が同じ校舎の中にある施設一体型となっている。

○小中一貫教育の具体例

9年間のカリキュラムに基づいた指導

段階的な教科担任制の導入

小中学校教員による乗り入れ授業

など

※2 小規模特認校制度

特定の学校を小規模特認校として教育委員会が指定することにより、従来の通学区域を残したまま市内全域から就学を認める制度。水戸市では国田小中学校を指定し、特色ある教育を受けることを保護者や児童生徒が希望する場合に認めている。（就学条件有り）

※3 義務教育学校

学校教育制度の多様化及び弾力化を推進するため、小学校から中学校までの義務教育を一貫して行う学校の種類として平成28年4月1日より創設される。（「学校教育法等の一部を改正する法律」が平成28年4月1日に施行されることに伴う）

○義務教育学校の概要

修業年限	9年（小学校段階6年を前期課程、中学校段階3年を後期課程とする）
学年区分	4-3-2や4-4-1などの柔軟な学年段階の区切り設定が可能
教育課程	9年間の系統性を確保した教育課程の編成 小・中の学習指導要領を準用した上で、一貫教育の実施に必要な教育課程の特例を創設
組 織	校長を1名とし、副校長又は教頭を1名加算 加算は、教諭とすることも可能

など